

AI駆動開発の取組みについて

2026年4月16日

富士通株式会社

AI Innovation Center長
岡田 英人

パブリックトランスフォーメーション本部長
播 俊太郎



1. 当社におけるAI駆動開発の取組み概要

- 「Takane-Driven Initiative」 について（以下、TDI）
- 「AI-Driven Software Development Platform」 について（以下、SDP）

2. 政府情報システムの調達においてAI駆動開発を推進する際の期待効果や想定課題

1. 当社におけるAI駆動開発の取組み概要

当社プレスリリース（2026年2月17日）

大規模言語モデル「Takane」を活用し、ソフトウェアの要件定義から設計、実装、結合テストに渡る全工程をAIエージェントが協調し実行するAIドリブン開発基盤を開発し、運用開始

2026年度中に法改正に伴う医療・行政分野全67の業種ソフトウェアの改修に適用

<https://global.fujitsu/ja-jp/pr/news/2026/02/17-01>

記者説明会資料を中心にご紹介 ※上記URLのページに掲載

An abstract graphic on the left side of the slide features a series of thin, curved lines in shades of cyan and purple that converge and diverge, creating a sense of motion and depth.

システム開発を変革する AIドリブン開発基盤

2026年4月16日
富士通株式会社

※富士通株式会社、富士通Japan株式会社が2026年2月17日に
実施した記者発表説明資料から抜粋した内容です。

システム開発の未来を分ける、決定的なターニングポイント



- 生成AI活用による生産性向上が進み価格競争が加速
- 生成AIの民主化により、顧客主導の内製化が拡大
- 単純な開発・改修は、付加価値を生みにくい領域
- 技術選定・ツール論が先行し、差別化が困難



- 富士通の新たな提供価値は、**圧倒的なスピード (Time to Market)** と**継続的な適応力**
- **AI-Ready Engineering × AIドリブン開発基盤**
- AIと人が役割分担し、**段階的にAI主導へ進化するサービスモデル**

富士通が挑むべき未解決領域

AIがいまだ解けない「複雑な既存システムの理解と自動改修」に挑む

“Takane-Driven Initiative

当社ヘルスケア・行政パッケージ製品を対象に、法制度改正時のシステム改修を要件定義から結合テストまでAIで一気通貫に自動化する取り組み



ヘルスケア

病院や診療所向けに電子カルテを中心とした医療情報システム

30 パッケージ



行政

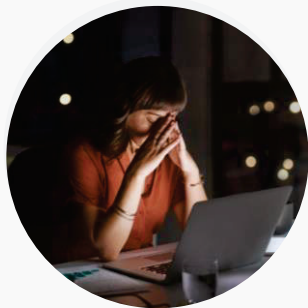
自治体向けに税務、住民情報、福祉、子育てなど幅広い業務に対応

37 パッケージ

なぜ、ヘルスケア・行政なのか

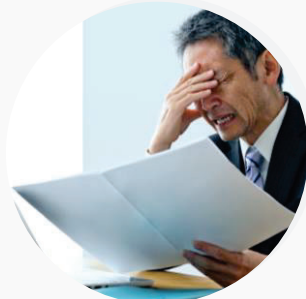
法制度改正に追隨する「変化し続ける巨大システム」の改修は、最難関領域 現場負担を減らし、社会の基盤を止めない、持続可能な運用へ

社会環境の変化への対応 としての法制度改正



- 診療報酬改定など定期的な改定に加え、社会課題解決に向けた法改正が近年増加
- 法制度の解釈は職員でも正確に理解し対応することが困難

限られた期間で新制度 への対応が必要



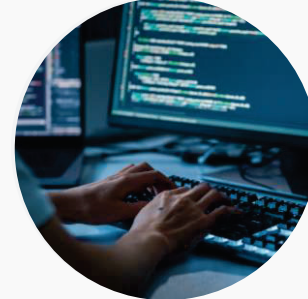
- 短期間での対応で例外の実例を十分に考慮できず事務過誤を生むことがある
- 法制度改正期間と期末繁忙期が重なり職員の身体的・心理的負荷も大きい

制度の多様化による システムの複雑化



- 各システムは毎年発生する変更要求により規模が大きくなり、保守作業量が年々増大
- 67パッケージ、150MSに及ぶ巨大なソフトウェア資産

法制度の段階的な詳細化と 開発に必要な期間の不足



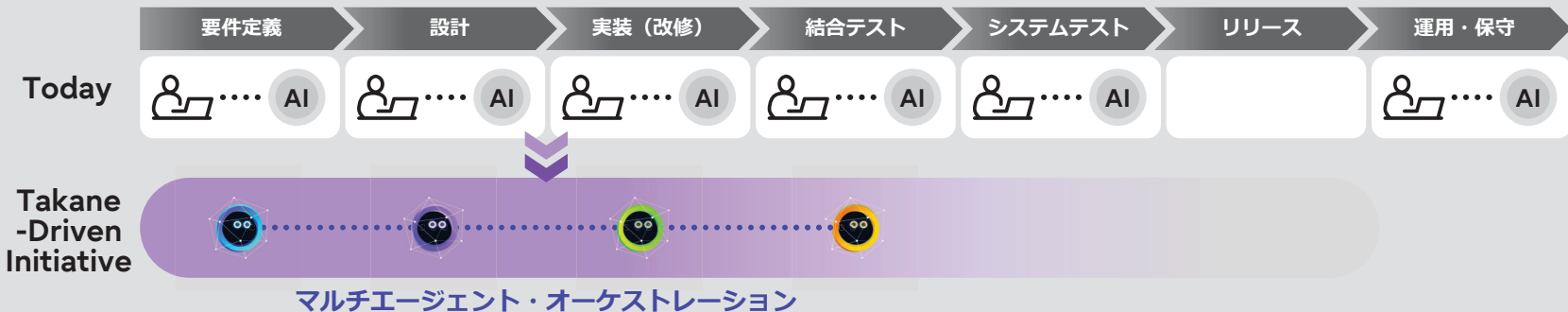
- 法改正の公表から施行までの期間内に全機能の開発が間に合わない場合も
- 改正内容の明確化が段階的かつ施行の直前まで続いたため手戻りも多い

Takane-Driven Initiative概要

ドメイン特化モデル「Takane」を核に、法制度の理解・要件定義から、設計・実装（改修）・結合テストまで、一気通貫の自動化をAIで実現

- 要件定義から結合テストまでを、マルチエージェントで一気通貫にオーケストレーション
- 暗黙知・例外運用を形式知化し、AIが参照可能なGround Truthとして統合
- AIエージェントが影響範囲を特定し、網羅的に設計・実装（改修）

人とAIが対話しつづける開発から、自律的なAIによる**ノンストップ**の開発へ



圧倒的成果

FUJITSU

システム改修は、人の作業からAIの作業へ

3人月 **➡➡** 4時間

約 **100** 倍の生産性

Takane-Driven Initiativeからその先へ
すべてのシステム開発へ展開

「変化し続けるシステム」に強いAIドリブン開発基盤

展開ターゲットは「変化しつづけるシステム」

改修に多大なコストやリソースを恒常的に消費し、人手依存がボトルネックとなっているシステム
変更スピードが競争力を左右し、Time to Market改善がそのままビジネス価値に直結するシステム

継続改修が恒常化

法対応、商品・料金ロジック
更新、外部サービス連携

変更頻度が高く リリースが高速

月次リリース、アジャイルが
常態

長年の改修で巨大化・ 複雑化した資産

依存関係・独自仕様・
暗黙知が多い

監査・説明責任の 要求が高い

変更理由の
トレーサビリティが必要



金融



通信



小売



物流



製造

AI-Driven Software Development Platformの概要

富士通の研究所技術と業務知見を核に、複数のAIエージェントを協調させ、要件定義から結合テストまでを一気通貫に自動化するAIドリブン開発基盤



AI-Ready Engineeringとは

AIが既存システムを正しく理解し、信頼性ある自動化を実行できるよう
資産・知識・品質を整える工程。この「仕込み」の成熟度が自動化の精度を決める

AI-Ready 自動化の成功率を決める「仕込み」



Fitting AIをシステムに正しくはめ込む

資産理解

Asset Understanding

- 既存システム資産の構造化と検索インデックス化
- 暗黙知の形式知化（業務知識・開発手順・資産依存関係など）

開発ルール・設計構造の標準化

Engineering Conventions

- 命名規約・設計作法・テスト観点の整備
- 修正しやすい構造への再編

AI × 既存システムの適合調整

Fitting

- 正解データとAI改修結果のギャップを評価し、コンテキストやプロンプトをチューニング（形式知の見直し・検索インデックスの充実化）
- TakaneのチューニングでAIの判断品質を最適化

正解データの準備

Ground Truth

- 過去改修の正解データ化
- AIの結果を正解データと比較・評価する仕組み

実行環境の整備

Execution Readiness

- 自動ビルド・自動テスト・自動配備の仕組み（CI/CD）
- AIが出力した成果物をCI/CD基盤と連携

AI-Ready Engineering - 富士通の強み -

人の実践知と、AIの実行知を「結合」できる力

Human knowledge



Machine Knowledge

富士通の現場エンジニアが積み上げてきた実践知

大規模・複雑な既存システムを読み解く力

- ・ 行政・金融・医療など、複雑な領域を40年以上担当
- ・ 数万ファイル規模のコード資産の構造・履歴・運用を理解
- ・ AIの混乱を招く「表現のゆらぎ」を見抜ける現場力

暗黙知・例外運用の通訳力

- ・ 設計書に書かれていない業界慣行・例外処理・運用判断を理解
- ・ 「仕様書より現場が正しい」世界で、仕様ギャップを埋め続けてきた経験

標準化・品質管理の蓄積

- ・ 命名規約・開発標準・テスト観点の長年の蓄積
- ・ お客様固有の作法を守りながら改修するノウハウ

AIが「人間品質」で動くための仕組み

暗黙知の形式知化と注入

- ・ 設計書にない業務ルール・例外処理・判断の意図を構造化
- ・ 要件・設計・コードをつなぐ見えない橋をAIが辿れる形に変換
- ・ Human-onlyだった判断領域を、AIが扱える入力へ

人間知を再現できる実行基盤

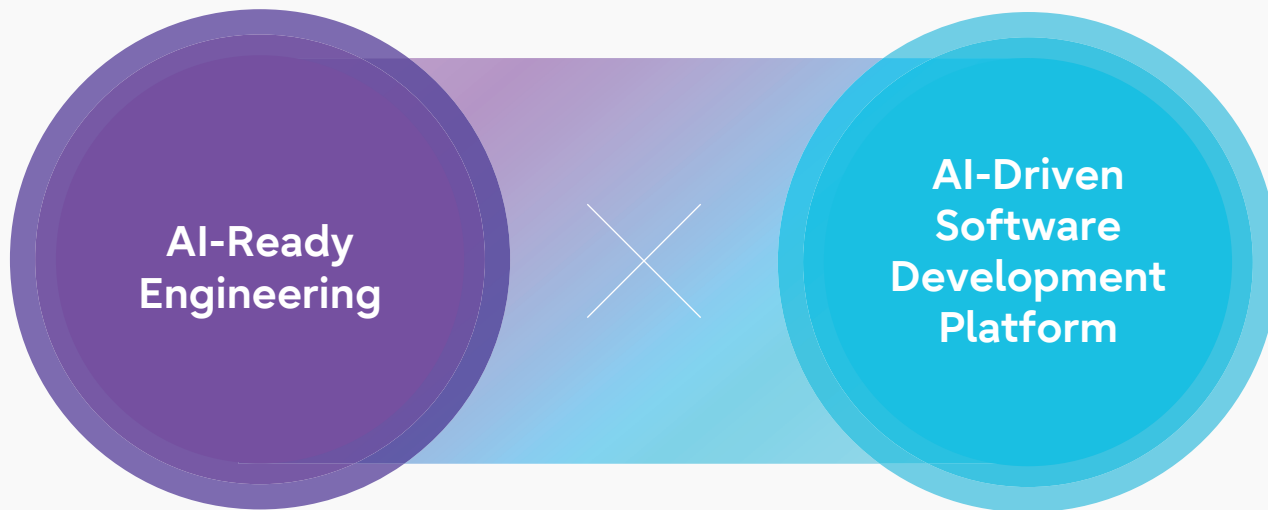
- ・ 設計やコーディング、テストの結果を段階的に評価し、網羅性・具体性を自律的に高めるエージェント群
- ・ 日本語理解・ミッションクリティカル領域に長けたTakaneを中核に据えたAI実行構造

改修プロセス全体のオーケストレーション

- ・ 要件定義・設計・実装・結合テストをつなぎ、完了まで走り続ける

“ AI-Ready Engineering × AIドリブン開発基盤

一気通貫のシステム開発自動化を実現する両輪



AIが迷わず判断できる状態をつくる
—資産理解・暗黙知・品質基準—

AIによる自律的な開発実行
—要件定義～結合テストの自動化—

2-1. 期待効果

発注者にとって「案件ごとの都度対応」から「持続性の確保」に転換する契機となることが期待される

調達工程	従来状況	AI駆動による変化・期待
① 企画立案・調達準備	<ul style="list-style-type: none">・ 個別案件ごとに要件整理・ 暗黙知・人の経験に依存	<ul style="list-style-type: none">・ 制度等の変化に応じ継続的に最適化・ 既存資産を構造化・ナレッジ化
② 市場調査 (RFI)	技術の有無・実績確認が中心	対応力・自動化範囲・持続性を確認
③ 調達仕様策定 (RFP)	機能・仕様を固定的に記載	成果・変更対応力を重視して記載
④ 入札・提案評価	体制・価格中心の評価	持続性・品質、対応力を評価
⑤ 設計開発・運用保守	<ul style="list-style-type: none">・ 改定のたびに大規模改修・ 品質ばらつき、属人化	<ul style="list-style-type: none">・ 影響特定→短期対応・ 知識を仕組みに蓄積、平準化

2-2. 効果を生むための検討事項・課題

AI駆動への転換の成否を分けるのは、AIそのものではない
「AIが正しく理解できる状態を、事前に整えているか」がポイント

従来

- ✓ 人が不完全な資料を読み解き、
経験で補完してきた
- ✓ 曖昧さや属人性は
「現場力」で吸収

AI駆動の時代

- ✓ AIは 曖昧なままでは正しく動かない
- ✓ 入力（資産・要件・設計）が不明瞭では
誤った自動化・ブラックボックス化の
リスクが高まる

業務・制度・システム資産の構造化・標準化

“AI-Ready Engineering”

人もレビュー・判断でき、
AIにも理解できる形で
データやナレッジを整える取組み
がAI駆動開発の前提として不可欠



免責事項 / Disclaimer

1. 本資料に記載されている内容は、発表時点における情報に基づくものであり、今後予告なく変更となる場合があります。
The information contained in this material is current as of the date of presentation and is subject to change without notice.
2. 本資料の情報は、特定の製品・サービスの販売・提供を約束・保証するものではありません。
This material does not constitute a commitment or guarantee for the sale or provision of any specific products or services.
3. 本資料に記載の会社名・製品名・サービス名等は、各社の商標または登録商標です。
Company names, product names, and service names mentioned herein are trademarks or registered trademarks of their respective owners.
4. 本資料の一部または全部を、無断で複製・転載・転用することを禁じます。
Reproduction, redistribution, or repurposing of any part of this material without prior written consent is strictly prohibited.
5. 本資料に記載の将来の見通しや計画等には、不確実な要素が含まれており、実際の結果と異なる場合があります。
Forward-looking statements and plans in this material contain uncertainties and may differ from actual results.